

(様式第10)

兵 医 法 第 70 号
令 和 4 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

開設者名

学校法人 兵庫医科大学
理事長 太城 力良

兵庫医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和3年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
氏 名	学校法人 兵庫医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

兵庫医科大学病院

3 所在の場所

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号	電話(0798) 45-6111
--------------------------	--------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
内科と組み合わせた診療科名等	
① 呼吸器内科 ② 消化器内科 ③ 循環器内科 4 腎臓内科	
5 神経内科 ⑥ 血液内科 7 内分泌内科 8 代謝内科	
9 感染症内科 ⑩ アレルギー疾患内科またはアレルギー科 ⑪ リウマチ科	
診療実績	
・ 内分泌内科、代謝内科の診療内容は「内分泌・代謝内科」で提供。	
・ 腎臓内科の診療内容は、「腎臓・人工透析内科」で提供。	
・ 感染症内科の診療内容は、主として総合内科および感染制御部で提供。	
・ 神経内科の診療内容は「脳神経内科」にて提供。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
外科と組み合わせた診療科名	
① 呼吸器外科 ② 消化器外科 3 乳腺外科 4 心臓外科 5 血管外科 ⑥ 心臓血管外科 7 内分泌外科 ⑧ 小児外科	
診療実績	
・ 乳腺外科、内分泌外科の診療内容は「乳腺・内分泌外科」で提供。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科 ② 小児科 ③ 整形外科 ④ 脳神経外科 ⑤ 皮膚科 ⑥ 泌尿器科 ⑦ 産婦人科 8 産科 9 婦人科 ⑩ 眼科 ⑪ 耳鼻咽喉科 ⑫ 放射線科 13 放射線診断科 ⑭ 放射線治療科 ⑮ 麻酔科 ⑯ 救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 小児歯科 2 矯正歯科 3 口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科 2 臨床検査科 3 病理診断科 4 糖尿病内科 5 肝臓・胆のう・膵臓内科 6 腫瘍内科 7 形成外科 8 美容外科 9 頭頸部外科 10 ニック・疼痛緩和外科 11 内分泌・代謝内科 12 脳神経内科 13 腎臓・人工透析内科 14 乳腺・内分泌外科 15 歯科口腔外科 16 総合内科 17 18 19 20
--

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
44床	0床	0床	0床	919床	963床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数	
医 師	637 人	80 人	644 人	看護補助者	173 人	診療エックス線技師	0 人	
歯科医師	23 人	6 人	24.7 人	理学療法士	34 人	臨床 検査 その他	臨床検査技師	100 人
薬 剤 師	75 人	0 人	75 人	作業療法士	14 人		衛生検査技師	0 人
保 健 師	0 人	0 人	0 人	視能訓練士	10 人		その他	0 人
助 産 師	40 人	0 人	40 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人	
看 護 師	1,019 人	34 人	1,040.1 人	臨床工学士	28 人	医療社会事業従事者	10 人	
准看護師	0 人	4 人	1.4 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	34 人	
歯科衛生士	6 人	0 人	6 人	歯科技工士	2 人	事 務 職 員	266 人	
管理栄養士	9 人	0 人	9 人	診療放射線技師	52 人	その他の職員	14 人	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	55 人	眼 科 専 門 医	13 人
外 科 専 門 医	53 人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	13 人
精 神 科 専 門 医	11 人	放 射 線 科 専 門 医	7 人
小 児 科 専 門 医	23 人	脳 神 経 外 科 専 門 医	14 人
皮 膚 科 専 門 医	6 人	整 形 外 科 専 門 医	18 人
泌 尿 器 科 専 門 医	10 人	麻 酔 科 専 門 医	33 人
産 婦 人 科 専 門 医	15 人	救 急 科 専 門 医	10 人
		合 計	282 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (阪上 雅史) 任命年月日 2019年4月1日

医療安全管理部長、医療安全管理委員会委員長 2012.4-2017.3
 医療安全管理責任者 2016.10-2017.3

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	717.5人	8.5人	726.0人
1日当たり平均外来患者数	1,888.5人	85.9人	1,974.4人
1日当たり平均調剤数	3,119.7剤		
必要医師数	200.0人		
必要歯科医師数	5.0人		
必要薬剤師数	39.0人		
必要(准)看護師数	439.0人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	450.40 m ²	鉄筋コンクリート(RC)	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	20床 <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 [移動式の場合] 台数		339.44 m ² m ² 11台	病床数 病床数	22床 床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 [共用室の場合] 共用する室名		41.95 m ²			
化学検査室	159.50 m ²	鉄筋コンクリート(SRC)	(主な設備)	生化学・免疫統合型分析装置cobas8000<c702>, cobas8000<e801> 免疫分析ARCHITECTi1000SR, 全自動糖分析装置GA09, 東ソー自動グリコヘモグロビン分析計HLC-723G11		
細菌検査室	145.90 m ²	鉄筋コンクリート(SRC)	(主な設備)	Auto-Scan W/A、バクテアラート3D、MGIT、Taqman		
病理検査室	208.90 m ²	鉄筋コンクリート(SRC)	(主な設備)	クリオスタット、連続迅速自動固定包埋装置		
病理解剖室	110.70 m ²	鉄筋コンクリート(SRC)	(主な設備)	解剖台、サクラリサイクラー、エコプロセス		
研究室	17,124.80 m ²	鉄骨造(S)	(主な設備)	CO2インキュベーター、オートクレーブ、オールインワン蛍光顕微鏡、リアルタイムPCRシステム		
講義室	2,006.60 m ²	鉄筋コンクリート(RC) 鉄骨造(S)	室数	15室	収容定員	1,481人
図書室	1,128.00 m ²	鉄筋コンクリート(RC)	室数	1室	蔵書数	67,550冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		87.0%	逆紹介率		66.9%
算出 根拠	A: 紹介患者の数				23,591人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数				19,198人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数				1,368人
	D: 初診の患者の数				28,696人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
宮崎 浩彰	関西医科大学 医療安全管理センター副センター長 (兼任) 消化器肝臓内科 / 理事長特命教授 (医師)	○	医療に係る安全管理に関する見解を有する者	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
亀井 尚也	かけはし法律事務所 (弁護士)		法律に関する見解を有する者	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
辰馬 勝	学校法人 関西学院 評議員 関西学院同窓会 副会長		医療を受ける者の立場から意見を述べるができる者	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
				<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
				<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
				<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
				<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
公表の方法	
兵庫医科大学病院ホームページにて掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0人
術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法 切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん(HER2が陽性のものに限る。)	0人
マルチプレックス遺伝子パネル検査(ステージがⅢ期若しくはⅣ期で手術が不能なもの又は治療後に再発したものであって、治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限り、肉腫を除く。)	0人
術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	10人
先進医療の種類合計数	4
扱い患者数の合計(人)	10人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
・記載事項なし	
先進医療の種類合計	
取扱い患者数の合計(人)	0

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	肝以外の腫瘍に対するラジオ波凝固治療	取扱患者数	36人
当該医療技術の概要 肺、腎臓、副腎、骨・軟部腫瘍の外科的切除が困難な患者に対して、局所麻酔下で経皮的に施行可能なラジオ波凝固治療を施行し、より低侵襲な治療を提供している。			
医療技術名	骨軟部腫瘍に対する経皮的凍結治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 他の治療法が有効でなかった骨軟部腫瘍の患者に対し経皮的凍結治療を施行する。治療領域が確認できることで、神経損傷を回避しやすくなり、手技中の疼痛も少ないという利点がある。さらに、良好な除痛効果や腫瘍縮小効果が期待できる治療法である。			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)	取扱患者数	31人
当該医療技術の概要 カテーテルを用いて大動脈弁を人工弁に置き換える治療法。従来の開胸大動脈弁置換術よりも低侵襲であり、手術が困難と判断された高齢者でも可能な大動脈弁狭窄症の治療法である。			
医療技術名	腹腔鏡下胃切除術(ロボット支援下手術)	取扱患者数	44人
当該医療技術の概要 体への負担が少なく、より正確で安全性の高い操作が可能な手術支援ロボットによる低侵襲な胃癌の手術。			
医療技術名	腹腔鏡下直腸切除・切断術(ロボット支援下手術)	取扱患者数	42人
当該医療技術の概要 手術支援ロボットにより、従来の腹腔鏡よりも緻密な手術が可能になり、機能温存が重要な直腸がんの手術に有用な治療法である。			
医療技術名	アミロイドPET	取扱患者数	29人
当該医療技術の概要 アルツハイマー型認知症のリスクを評価する最先端の検査です。アルツハイマー病の原因である脳のアミロイドβに集積する物質を注射し、脳内にどのくらい蓄積するかを調べます。			
医療技術名	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(ロボット支援下手術)	取扱患者数	44人
当該医療技術の概要 原発性肺がんに対して、精度が高くかつ安全な手術を行うことができる治療法である。			
医療技術名	胸腔鏡下良性・悪性縦隔腫瘍手術(ロボット支援下手術)	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 縦隔腫瘍に対して手術支援ロボットにより低侵襲かつ安全にアプローチ可能となる治療法である。			
医療技術名	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(ロボット支援下手術)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 胸腺疾患に対して手術支援ロボットを使用することで安全に施行可能な治療法である。			
医療技術名	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(ロボット支援下手術)	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 咽頭がんや喉頭がんの治療において手術支援ロボットを使用することで低侵襲で安全に施行可能な治療法である。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	10
取扱い患者数の合計(人)	256

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
6	56	球脊髄性筋萎縮症	32	ベーチェット病	32
17	57	筋萎縮性側索硬化症	17	特発性拡張型心筋症	17
0	58	脊髄性筋萎縮症	5	肥大型心筋症	5
0	59	原発性側索硬化症	0	拘束型心筋症	0
0	60	進行性核上性麻痺	32	再生不良性貧血	32
153	61	パーキンソン病	0	自己免疫性溶血性貧血	0
9	62	大脳皮質基底核変性症	1	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
2	63	ハンチントン病	27	特発性血小板減少性紫斑病	27
0	64	神経有棘赤血球症	0	血栓性血小板減少性紫斑病	0
1	65	シャルコー・マリー・トウス病	6	原発性免疫不全症候群	6
69	66	重症筋無力症	42	IgA腎症	42
0	67	先天性筋無力症候群	0	多発性嚢胞腎	0
30	68	多発性硬化症／視神経脊髄炎	1	黄色靱帯骨化症	1
28	69	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	10	後縦靱帯骨化症	10
1	70	封入体筋炎	6	広範脊柱管狭窄症	6
0	71	クロー・深瀬症候群	5	特発性大腿骨頭壊死症	5
20	72	多系統萎縮症	0	下垂体性ADH分泌異常症	0
15	73	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	0	下垂体性TSH分泌亢進症	0
0	74	ライソゾーム病	0	下垂体性PRL分泌亢進症	0
0	75	副腎白質ジストロフィー	12	クッシング病	12
1	76	ミトコンドリア病	0	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
8	77	もやもや病	0	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
0	78	プリオン病	0	下垂体前葉機能低下症	0
0	79	亜急性硬化性全脳炎	10	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	10
1	80	進行性多巣性白質脳症	0	甲状腺ホルモン不応症	0
1	81	HTLV-1関連脊髄症	0	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
0	82	特発性基底核石灰化症	0	先天性副腎低形成症	0
7	83	全身性アミロイドーシス	1	アジソン病	1
0	84	ウルリッヒ病	29	サルコイドーシス	29
0	85	遠位型ミオパチー	44	特発性間質性肺炎	44
0	86	ベスレムミオパチー	17	肺動脈性肺高血圧症	17
0	87	自己貪食空胞性ミオパチー	0	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
0	88	シュワルツ・ヤンベル症候群	4	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	4
4	89	神経線維腫症	0	リンパ脈管筋腫症	0
4	90	天疱瘡	0	網膜色素変性症	0
1	91	表皮水疱症	2	バッド・キアリ症候群	2
2	92	膿疱性乾癬(汎発型)	1	特発性門脈圧亢進症	1
1	93	スティーヴンス・ジョンソン症候群	19	原発性胆汁性肝硬変	19
2	94	中毒性表皮壊死症	20	原発性硬化性胆管炎	20
9	95	高安動脈炎	22	自己免疫性胆管炎	22
6	96	巨細胞性動脈炎	364	クローン病	364
1	97	結節性多発動脈炎	407	潰瘍性大腸炎	407
17	98	顕微鏡的多発血管炎	0	好酸球性消化管疾患	0
16	99	多発血管炎性肉芽腫症	4	慢性特発性偽性腸閉塞症	4
12	100	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	0	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
8	101	悪性関節リウマチ	0	腸管神経節細胞減少症	0
2	102	パージャール病	0	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
27	103	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	CFC症候群	0
117	104	全身性エリテマトーデス	0	コステロ症候群	0
63	105	皮膚筋炎／多発性筋炎	0	チャージ症候群	0
29	106	全身性強皮症	0	クリオピリン関連周期熱症候群	0
18	107	混合性結合組織病	0	全身型若年性特発性関節炎	0
131	108	シェーグレン症候群	0	TNF受容体関連周期性症候群	0
10	109	成人ステル病	0	非典型溶血性尿毒症症候群	0
2	110	再発性多発軟骨炎	0	ブラウ症候群	0
		疾患名		疾患名	
2	161	先天性ミオパチー	1	家族性良性慢性天疱瘡	1
0	162	マリネスコ・シェーグレン症候群	2	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	2
0	163	筋ジストロフィー	1	特発性後天性全身性無汗症	1
1	164	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	眼皮皮膚白皮症	0
0	165	遺伝性周期性四肢麻痺	0	肥厚性皮膚骨膜炎	0
0	166	アトピー性脊髄炎	0	弾性線維性仮性黄色腫	0
8	167	脊髄空洞症	1	マルファン症候群	1
4	168	脊髄髄膜瘤	0	エーラス・ダンロス症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オキシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	1
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	6	177	有馬症候群	0
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	2
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	1	189	無脾症候群	1
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	2	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	2	195	ヌーナン症候群	3
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	1
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスマッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	2	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	無脾症候群	1
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0
	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	1
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	1	265	脂肪萎縮症	1
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	25
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	9	268	中條・西村症候群	1
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	8	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	9

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	1
225	先天性腎性尿崩症	2	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	2
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	2
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	11	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	4
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	3
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	3	293	総排泄腔遺残	3
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	2
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	16
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	4
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	1
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	3
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	66
	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	2	321	非ケト-シス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	1	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	1
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	2
318	シトリン欠損症	2	330	先天性気管狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャスルマン病	0
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	1
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	126
合計患者数(人)	2233

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	特定集中治療室管理料1の注4に掲げる早期離床・リハビリテーション加算
歯科外来診療環境体制加算2	ハイケアユニット入院医療管理料2
歯科診療特別対応連携加算	脳卒中ケアユニット入院医療管理料
特定機能病院入院基本料	総合周産期特定集中治療室管理料
救急医療管理加算	総合周産期特定集中治療室管理料の注3に掲げる生育連携支援加算
超急性期脳卒中加算	新生児治療回復室入院医療管理料
診療録管理体制加算1	小児入院医療管理料2
医師事務作業補助体制加算1 20対1	小児入院医療管理料の注7に掲げる養育支援体制加算
医師事務作業補助体制加算1 25対1	歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
急性期看護補助体制加算(25対1看護補助者5割以上)	ウイルス疾患指導料 注2に規定する加算
(夜間100対1急性期看護補助体制加算)	遠隔モニタリング加算(心臓ペースメーカー指導管理料)
(夜間看護体制加算)	糖尿病合併症管理料
看護職員夜間配置加算1(12対1)1	がん性疼痛緩和指導管理料
看護補助加算2(50対1)	がん患者指導管理料イ
無菌治療室管理加算1	がん患者指導管理料ロ
無菌治療室管理加算2	がん患者指導管理料ハ
緩和ケア診療加算	がん患者指導管理料ニ
精神病棟入院時医学管理加算	外来緩和ケア管理料
精神科身体合併症管理加算	移植後患者指導管理料(臓器移植後)
精神科リエゾンチーム加算	移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)
摂食障害入院医療管理加算	抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
栄養サポートチーム加算	糖尿病透析予防指導管理料
医療安全対策加算1	外来放射線照射診療料
感染対策向上加算1、指導強化加算	婦人科特定疾患治療管理料
患者サポート体制充実加算	腎代替療法指導管理料
報告書管理体制加算	一般不妊治療管理料
ハイリスク妊娠管理加算	生殖補助医療管理料1
ハイリスク分娩管理加算	下肢創傷処置管理料
呼吸ケアチーム加算	外来腫瘍化学療法診療料1、連携充実加算
術後疼痛管理チーム加算	ニコチン依存症管理料

後発医薬品使用体制加算2	療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談支援加算
病棟薬剤業務実施加算1	開放型病院共同指導料
病棟薬剤業務実施加算2	ハイリスク妊産婦連携指導料1
データ提出加算2	ハイリスク妊産婦連携指導料2
入退院支援加算2	こころの連携指導料Ⅱ
入退院支援加算3	がん治療連携計画策定料
(入院時支援加算)	肝炎インターフェロン治療計画料
(地域連携診療計画加算)	外来排尿自立指導料
認知症ケア加算1	薬剤管理指導料
精神疾患診療体制加算	検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
排尿自立支援加算	医療機器安全管理料1
地域医療体制確保加算	医療機器安全管理料2
救命救急入院料1	精神科退院時共同指導料2
救命救急入院料4(20床→18床へ)	救急搬送診療料の注4に掲げる重症患者搬送加算
救命救急入院料の注1に掲げる算定上限日数基準	遠隔モニタリング加算(在宅酸素療法指導管理料に対する)
救命救急入院料の注2に掲げる精神疾患診断治療初回加算	遠隔モニタリング加算(在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料に対する)
救命救急入院料の注8に掲げる早期離床・リハビリテーション加算	在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
救命救急入院料「4」の注9に掲げる早期栄養介入管理加算	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
特定集中治療室管理料1	持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
特定集中治療室管理料の注1に掲げる算定上限日数基準	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
遺伝学的検査	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
染色体検査の注2に掲げる絨毛染色体検査	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
骨髄微小残存病変量測定	肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
BRCA1/2遺伝子検査	食道縫合術(穿刺、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等
がんゲノムプロファイリング検査	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
先天性代謝異常症検査	胸腔鏡下弁形成術
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	経カテーテル大動脈弁置換術
検体検査管理加算(IV)	胸腔鏡下弁置換術
国際標準検査管理加算	経皮的僧帽弁クリップ術
遺伝カウンセリング加算	不整脈手術 左心耳閉鎖術 胸腔鏡下によるもの
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	経皮的な中隔心筋焼灼術
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
胎児心エコー法	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
ヘッドアップティルト試験	植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
長期継続頭蓋内脳波検査	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
神経学的検査	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
補聴器適合検査	補助人工心臓
黄斑局所網膜電図	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
全視野精密網膜電図	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
ロービジョン検査判断料	内視鏡的逆流防止粘膜切除術
コンタクトレンズ検査料1	腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
小児食物アレルギー負荷検査	腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
内服・点滴誘発試験	腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
経気管支凍結生検法	腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
画像診断管理加算3	腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ポジトロン断層撮影	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術

ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
CT撮影及びMRI撮影	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
冠動脈CT撮影加算	腹腔鏡下肝切除術
外傷全身CT加算	生体部分肝移植術
心臓MRI撮影加算	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
乳房MRI撮影加算	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
頭部MRI撮影加算	腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合を除く。)
全身MRI撮影加算	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
血流予備量比コンピューター断層撮影	内視鏡的小腸ポリープ切除術
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	腹腔鏡下直腸切除・切断術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
連携充実加算	腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
外来化学療法加算1	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
無菌製剤処理料	腹腔鏡下腎盂形成術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	同種死体腎移植術
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	生体腎移植術
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	膀胱水圧拡張術
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
がん患者リハビリテーション料	人工尿道括約筋植込・置換術
歯科口腔リハビリテーション料2	膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)
通院・在宅精神療法の注9に掲げる療養生活継続支援加算	埋没陰茎手術
精神科作業療法	陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
認知療法・認知行動療法1	精巣内精子採取術
抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
医療保護入院等診療料	腹腔鏡下仙骨陰固定術
口腔粘膜処置	腹腔鏡下膣式子宮全摘術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
レーザー機器加算	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
人工腎臓	腹腔鏡下子宮癒痕部修復術
導入期加算2及び腎代替療法実績加算	乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌疾患症候群患者に限る。)
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	子宮附属器腫瘍摘出術 (遺伝性乳癌卵巣癌疾患症候群患者に限る。)
移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	体外式膜型人工肺管理料
センチネルリンパ節加算	輸血管理料Ⅰ
処理骨再建加算	コーディネート体制充実加算
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	自己生体組織接着剤作成術

骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	同種クリオプレシピテート作成術
椎間板内酵素注入療法	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
腫瘍脊椎骨全摘術	手術時歯根面レーザー応用加算
内視鏡下脳腫瘍生検術	う蝕歯無痛の窩洞形成加算
内視鏡下脳腫瘍摘出術	歯根端切除手術 注3
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。) 及び脳刺激装置交換術	手術用顕微鏡加算
癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	血漿交換療法 難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	歯周組織再生誘導手術
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
角結膜悪性腫瘍切除術	顎関節人工関節全置換術(歯科)
角膜移植術(内皮移植加算)	麻酔管理料(Ⅰ)
羊膜移植術	麻酔管理料(Ⅱ)
緑内障手術(流出路再建術(眼内法))	麻酔管理料の注に掲げる周術期薬剤管理加算
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	放射線治療専任加算
緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	外来放射線治療加算
緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	高エネルギー放射線治療
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	1回線量増加加算
網膜再建術	強度変調放射線治療(IMRT)
植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術	画像誘導放射線治療(IGRT)
耳管用補綴材挿入術	体外照射呼吸性移動対策加算
経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	定位放射線治療
人工中耳植込術	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	画像誘導密封小線源治療加算
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	保険医療機関間の連携による病理診断
経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)	保健医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	保健医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	病理診断管理加算2
頭頸部悪性腫瘍光線力学療法	デジタル病理画像による病理診断
乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	悪性腫瘍病理組織標本加算
乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	口腔病理診断管理加算2
乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	クラウン・ブリッジ維持管理料
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	CAD/CAM冠

胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	CAD/CAMインレー
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・記載事項なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	約200回	
剖検の状況	剖検症例数(例)	16
	剖検率(%)	2.7%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
人工知能による深層学習を用いたリアルタイム手術支援システムの開発	篠原 尚	消化器外科	4,290,000	補 日本学術振興会
重粒子線照射の膵癌細胞死・免疫応答分子機構解明と外科治療への応用展望	藤元 治朗	消化器外科	5,720,000	補 日本学術振興会
潜在的な薬剤性有害事象を自動的に検出する汎用性の高いアルゴリズムに関する研究	森本 剛	総合診療内科	4,680,000	補 日本学術振興会
うつ病合併妊婦に対する心理教育と対人関係療法の無作為化比較試験	清野 仁美	精神科神経科	650,000	補 日本学術振興会
小児片麻痺に対するCI療法の神経基盤と長期効果の解明	児玉 典彦	リハビリテーション科	910,000	補 日本学術振興会
マイクロバブルを用いた血流解析による、転移性肝癌viability評価方法の確立	中村 育夫	消化器外科	1,170,000	補 日本学術振興会
RAGEを介したグルココルチコイド/炎症による筋萎縮機序の解明と新規治療法の開発	庄司 拓仁	医学教育センター	1,430,000	補 日本学術振興会
胸部大動脈瘤におけるトランスフェリン受容体1の関与と新たな治療法の開発応用	内藤 由朗	循環器・腎透析内科	1,430,000	補 日本学術振興会
ラジオ波凝固治療の適応拡大を見据えた新しい細径電極針の開発	山門 亨一郎	放射線医	1,430,000	補 日本学術振興会
放射線性粘膜障害と舌運動障害への口腔内金属による影響—新たな線量制約の解明—	富士原 将之	放射線医	390,000	補 日本学術振興会
FDG-PET/CTの標準化と癌の新しいバイオマーカーの確立:多施設共同臨床試験	北島 一宏	放射線医療センター	390,000	補 日本学術振興会
肺RFA後の間質性肺炎急性増悪を引き起こす主要なサイトカインの探索と予防法の確立	児玉 大志	放射線医	1,040,000	補 日本学術振興会
粘膜バリア機能制御による好酸球性消化管疾患に対する新たな治療法開発	大島 忠之	消化器内科	1,430,000	補 日本学術振興会
肝内胆管癌におけるIL-11の機能解析と分子マーカーへの応用	宇山 直樹	消化器外科	1,430,000	補 日本学術振興会
ヒドロキシエチルデンプンによるグリコカリックス崩壊に対する血管収縮薬の軽減効果	多田羅 恒雄	手術センター	1,690,000	補 日本学術振興会
羊膜由来間葉系幹細胞を用いた脳出血治療の開発	吉村 紳一	脳神経外科	1,430,000	補 日本学術振興会
セロトニンによる新たな男性不妊治療法の開発	柴原 浩章	産科婦人科	1,170,000	補 日本学術振興会
加齢黄斑変性発症リスクを有する中心性漿液性脈絡網膜症早期抽出法の検証	五味 文	眼科	520,000	補 日本学術振興会
唾液腺癌発癌に関わる遺伝子の解析と分子標的薬の探索	野口 一馬	歯科口腔外科	1,040,000	補 日本学術振興会
重症心身障害児におけるグレリンの栄養生理学的意義の検討と臨床応用に向けた研究	銭谷 昌弘	消化器外科	1,300,000	補 日本学術振興会
肝動脈塞栓術後の再発を司る低酸素応答遺伝子の解明と、siRNA搭載塞栓剤の開発	高木 治行	放射線医	1,430,000	補 日本学術振興会
治療抵抗性大腸癌肝転移に対する肝動注塞栓療法	小笠原 篤	放射線医療センター	910,000	補 日本学術振興会

門脈大循環短絡を伴う胃静脈瘤に対する新たな塞栓治療法の確立:多施設共同臨床試験	小林 薫	放射線医	910,000	補	日本学術振興会
筋ジストロフィーにおける血管作動性因子のスプライシング動態の解明と治療	竹島 泰弘	小児科	1,430,000	補	日本学術振興会
肺癌治療において分子標的治療薬が惹起する薬剤性肺障害の発症機序の解明とその克服	南 俊行	呼吸器・血液内科	1,560,000	補	日本学術振興会
女性ホルモン類似物質による敗血症時の過活性化好中球機能制御についての検討	石川 倫子	救急科	1,560,000	補	日本学術振興会
熱傷サルコペニア骨格筋のミトコンドリア及びマイトファジー障害への麻酔の影響と対策	植木 隆介	麻酔科学・疼痛制御科	1,300,000	補	日本学術振興会
IL-18のがん治療における新たな抑制シグナルの解明	寺田 信行	病理診断科	1,300,000	補	日本学術振興会
骨肉腫に対してmTOR阻害剤とバルプロン酸を併用する新たな治療戦略の確立	麩谷 博之	整形外科	1,430,000	補	日本学術振興会
好酸球性副鼻腔炎の病態におけるメントールの役割に関する研究	都築 建三	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	補	日本学術振興会
創傷治癒過程における皮膚創部の酸化ストレス耐性獲得機構の解明	河合 建一郎	形成外科	1,560,000	補	日本学術振興会
思春期若年成人世代の血液腫瘍患者への情報提供の在り方と支援に関する研究	大杉 夕子	呼吸器・血液内科	520,000	補	日本学術振興会
社会的機能尺度を用いた地域におけるひきこもり等困難者発見プロトコルの標準化	山田 恒	精神科神経科	1,820,000	補	日本学術振興会
細胞外アデノシン濃度制御による革新的な固形癌治療法開発のための基礎的研究	小柴 賢洋	臨床検査医	1,040,000	補	日本学術振興会
過敏性腸症候群の身体・精神症状とグルテン感受性の関連及び新規治療手段の検討	前林 憲誠	精神科神経科	1,300,000	補	日本学術振興会
ナノ粒子型油性造影剤を用いたsiRNA送達システムの開発と肝動脈塞栓術への応用	谷口 純一	放射線医	1,430,000	補	日本学術振興会
エクソスキッピング誘導治療の有効性を予測する残存イントロン解析システムの検証	李 知子	小児科	1,820,000	補	日本学術振興会
超音波レオロジー理論を用いた脂肪性肝障害の病態解明と非侵襲的組織診断法の確立	飯島 尋子	消化器内科	1,430,000	補	日本学術振興会
核酸医薬を応用した肝癌由来増殖因子を標的とする新たな肝細胞癌治療薬の開発	榎本 平之	消化器内科	1,560,000	補	日本学術振興会
腸内細菌叢の攪乱と消化管微小炎症における Reg ファミリー蛋白の役割	福井 広一	消化器内科	2,470,000	補	日本学術振興会
心不全における心肺連関メカニズムの解明	朝倉 正紀	循環器・腎透析内科	910,000	補	日本学術振興会
歯周病レッドコンプレックスとIgA腎症発症進展機序解明と新規治療法の開発	長澤 康行	循環器・腎透析内科	1,690,000	補	日本学術振興会
皮膚における警報因子活性化システムの探索	山西 清文	皮膚科	1,430,000	補	日本学術振興会
皮膚2型自然リンパ球がアトピー性皮膚炎に与える影響の研究	今井 康友	皮膚科	1,820,000	補	日本学術振興会
HLA半合致移植では、患者とドナーが共有しない方のHLA拘束性T細胞は存在するか	池亀 和博	呼吸器・血液内科	1,300,000	補	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎の病態解明に向けた回腸囊炎の細菌叢解析	内野 基	消化器外科	1,820,000	補	日本学術振興会
神経干渉波刺激装置を用いた食道癌術後不顕性誤嚥予防のための新規リハビリの開発	隈本 力	消化器外科	1,950,000	補	日本学術振興会

脈管可視化技術を用いた次世代手術ナビゲーションシステムの開発	波多野 悦朗	消化器外科	1,300,000	補	日本学術振興会
ICG蛍光イメージングプロジェクションを用いた胃管血流デジタル評価システムの開発	倉橋 康典	消化器外科	1,950,000	補	日本学術振興会
重症尿路感染症の抗菌薬治療モニタリングにおける全自動尿中有形成成分分析装置の有用性	山本 新吾	泌尿器科	1,430,000	補	日本学術振興会
生物活性脂質メディエーター レゾルビンE2/E3を介する新規抗腫瘍効果の解明	鏑本 浩志	産科婦人科	1,690,000	補	日本学術振興会
妊娠の成立と維持に関する免疫担当細胞の関与の解明と新規治療の開発	福井 淳史	産科婦人科	910,000	補	日本学術振興会
破骨細胞の活性制御による骨リモデリング微小環境の恒常性維持機構	高岡 一樹	歯科口腔外科	1,560,000	補	日本学術振興会
中高生ピロリ菌検診と除菌治療:全国調査による実施の現状と問題点の把握	奥田 真珠美	小児科	1,690,000	補	日本学術振興会
尿酸代謝と糖代謝異常および糖尿病血管合併症との関連	角田 拓	糖尿病内分泌・免疫内科	2,080,000	補	日本学術振興会
呼吸動態の力学的な理解にもとづいた呼吸器疾患の新規診断法の開発	木島 貴志	呼吸器・血液内科	3,250,000	補	日本学術振興会
2型糖尿病発症とインスリン初期分泌低下への自律神経機能の影響に関するコホート研究	角谷 美樹	糖尿病内分泌・免疫内科	390,000	補	日本学術振興会
血管内皮増殖因子スプライシングアイソフォームを制御する筋ジストロフィー治療の検証	下村 英毅	小児科	1,170,000	補	日本学術振興会
全身性急性炎症後の男性生殖機能改善を目的とした基礎検討	井上 岳人	救急科	910,000	補	日本学術振興会
羊膜由来幹細胞を用いた脊髄損傷治療の検討	陰山 博人	脳神経外科	1,040,000	補	日本学術振興会
口腔癌細胞におけるVEGF-A/VEGFR-2autocrine機構の解明	川邊 睦記	歯科口腔外科	1,430,000	補	日本学術振興会
自律神経機能からみた代謝疾患における左室拡張機能障害の病態に関する研究	小阪 佳恵	糖尿病内分泌・免疫内科	520,000	補	日本学術振興会
心不全合併貧血における鉄代謝調節機構の関与とそれに基づく新規治療法の探索	康村 誠希	循環器・腎透析内科	1,430,000	補	日本学術振興会
チック関連強迫症の治療反応性予測における近赤外線スペクトロスコピーの有用性検証	向井 馨一郎	精神科神経科	2,340,000	補	日本学術振興会
アンチセンスオリゴによりVEGFスプライシングを制御する小児腎疾患治療の検討	西岡 隆文	小児科	780,000	補	日本学術振興会
M2c-マクロファージの制御による特発性肺線維症に対する新規抗線維化療法の開発	柴田 英輔	呼吸器・血液内科	2,470,000	補	日本学術振興会
炎症性皮膚疾患における2型自然リンパ球の遊走能に関する研究	永井 諒	皮膚科	1,170,000	補	日本学術振興会
脊髄損傷由来幹細胞を用いた神経再生療法の開発	蔵本 要二	脳神経外科	1,430,000	補	日本学術振興会
終末糖化産物受容体(RAGE)と血液脳関門機能、脳内炎症と認知機能障害	三好 晶雄	糖尿病内分泌・免疫内科	650,000	補	日本学術振興会
OSNA法による大腸癌リンパ節転移進展形式の同定	片岡 幸三	消化器外科	1,430,000	補	日本学術振興会
小児糖尿病の尿中落下細胞VEGFスプライシングアイソフォームの解析と腎症予防	にえ川 智美	小児科	2,080,000	補	日本学術振興会
ニコチナマイドリボไซด์を用いた新規肺高血圧症治療の検討	堀松 徹雄	臨床検査医	4,030,000	補	日本学術振興会

コハク酸-HIF1 α 経路を介した心不全抑制メカニズムの検討	西村 晃一	循環器・腎透析内科	1,430,000	補	日本学術振興会
ドライバー遺伝子変異陽性肺癌に抗腫瘍免疫を惹起する新たな癌免疫療法の開発	堀尾 大介	呼吸器・血液内科	2,080,000	補	日本学術振興会
肝細胞癌に対する薬物治療の効果とvessel co-optionの関連	奥野 将之	消化器外科	780,000	補	日本学術振興会
脊髄刺激療法による脊髄後角での鎮痛に関する分子発現変化の解明	奥谷 博愛	麻酔科学・疼痛制御科	2,080,000	補	日本学術振興会
ケロイドの慢性炎症と老化細胞の関係について	石瀬 久子	形成外科	1,430,000	補	日本学術振興会
炎症惹起顎骨壊死モデルを用いた抗G-CSF中和抗体によるARONJ新規治療の探索	上田 美帆	歯科口腔外科	1,560,000	補	日本学術振興会
糖尿病患者における糖代謝、睡眠障害と心左室拡張機能障害の関連	大東 真菜	糖尿病内分泌・免疫内科	1,950,000	補	日本学術振興会
超音波剪断波を用いた腫瘍硬度による、肝癌viability評価方法の確立	河端 悠介	肝・胆・膵外科	1,950,000	補	日本学術振興会
Vogt-Koyanagi-Harada病の画像処理による病態、再発の検討	小椋 有貴	眼科	520,000	補	日本学術振興会
精神疾患におけるグルテン感受性関連解析を起点とした新規治療手段の提供	本山 美久仁	精神科神経科	1,430,000	補	日本学術振興会
インプラント体の老化に伴う破骨細胞によるSASP因子の産生	押谷 将之	歯科口腔外科	470,000	補	日本学術振興会
骨低代謝回転に対する抗G-CSF抗体の影響	富本 康平	歯科口腔外科	470,000	補	日本学術振興会
スペクトルイメージングとサーモグラフィを用いた簡便かつ客観的な口腔評価法	河田 尚子	歯科口腔外科	470,000	補	日本学術振興会
指定難病と小児慢性特定疾病に関連した先天性骨系統疾患の適切な診断の実施と医療水準およびQOLの向上をめざした研究	澤井 英明	臨床遺伝部	14,203,000	補	厚労省
自己免疫制御を機序とする新規シェーグレン症候群治療薬の探索	西浦 弘志	病理診断科	15,000,000	委	日本学術振興会
臥位で尿流率が測定できるオムツ型尿流率測定システムの開発	兼松 明弘	泌尿器科	805,800	補	科学技術振興機構(JST)

計 16件
合計 88件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Aichi Makoto, Kuragano Takahiro, Iwasaki Takahide 他	腎・透析内科	Hemodiafiltration improves low levels of health-related quality of life (QoL) and nutritional conditions of hemodialysis patients.	ASAIO journal. 2022Feb;68:297	Original Article
2	Fujino Tetsuro, Hasunuma Hideki, Okuda Masumi 他	小児科	Association between house renovation during pregnancy and wheezing in the first year of life: The Japan environment and children's study.	Allergy international : official journal of the Japanese Society of Allergy.2021Oct;70:439	Original Article
3	Yoshimura Ayano, Araki-Sasaki Kaoru, Toyokawa Noriko 他	眼科	Synthetic rubber sheet to manage exposure keratopathy	Am J Ophthalmol Case Rep.2021Jul;23:1	Original Article
4	Fukui Atsushi, Chuxian Mai, Saeki Shinichiro 他	産科婦人科	Pelvic endometriosis and natural killer cell immunity	American journal of reproductive immunology. 2021Apr;85:1	Original Article
5	Shibahara Hiroaki, Wiakimoto Yu, Fukui Atsushi 他	産科婦人科	Anti-sperm antibodies and reproduction	American journal of reproductive immunology. 2021Apr;85:1	Review
6	Morimoto Shota, Iseki Tomoya, Morooka Takatoshi 他	整形外科	The Effectiveness of Intramedullary Nailing for Tibial Shaft Fractures	The American journal of sports medicine. 2021Dec;49:4001-7	Original Article
7	Kuwahara Masaatsu, Takahashi Chikako, Nishimura Sota 他	救急科	N95 masks worn to protect against COVID-19 prevented tuberculosis exposure in healthcare workers	Annals of Medicine and Surgery.2022Jan;76:1	Case report
8	Hashimoto Masaki, Arizumi Fumihiro, Yamamoto Aya 他	呼吸器外科	One-Stage Robotic Resection for Thoracic Dumbbell Tumor Without Repositioning.	The Annals of thoracic surgery.2021Aug;112:e83-5	Original Article
9	Sakaguchi Taichi, Hiraoka Arudo, Ryomoto Masaaki 他	心臓血管外科	Papillary Muscle Reorientation for Systolic Anterior Motion After Mitral Valve Repair.	The Annals of thoracic surgery.2021Apr;111:e305-e307	Case report
10	Yamashita Akihiro, Takeda Yu, Fukui Tomokazu 他	救急科	Revision Total Hip Arthroplasty due to Catastrophic Osteolysis Caused by Massive Chronic Expanding Hematoma.	Arthroplasty today. 2021Oct;11:32-7	Original Article
11	Nin Tomomi, Tanaka Makoto, Nishida Kohei 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	A clinical survey on patients with taste disorders in Japan: A comparative study.	Auris, nasus, larynx. 2022Jan;49:27: S0385-8146(22)00021-9. doi:10.1016/j.anl.2022.01.002	Review
12	Iwasaki Takahide, Fujimori Akira, Nakanishi Takeshi 他	腎・透析内科	Saccharated ferric oxide attenuates haematopoietic response induced by epoetin beta pegol in patients undergoing haemodialysis.	BMC nephrology .2021Apr;22:124	Original Article

計12件

13	Koida Atsuhide, Yasuda Koubun, Adachi Takumi 他	肝・胆・膵外科	Thymic stromal lymphopoietin contributes to protection of mice from <i>Strongyloides venezuelensis</i> infection by CD4 ⁺ T cell-dependent and -independent pathways	Biochemical and Biophysical Research Communications. 2021Apr;28:555:168	Original Article
14	Hikasa Shinichi, Shimabukuro Shota, Osugi Yuko 他	薬剤部	Decrease in voriconazole concentration-to-dose ratio after letermovir initiation: a retrospective, observational study	Bone Marrow Transplantation. 2021Apr;56:949	Letter
15	Shimomura Hideki, Tokunaga Sachi, Taniguchi Naoko 他	小児科	Reply to letter to editor "Children with migraine and tension-type headache: Do they have behavioral and emotional issues?".	Brain & development. 2022Jan;44:79	Others
16	Shimomura Hideki, Tokunaga Sachi, Taniguchi Naoko 他	小児科	Emotional and behavioral problems in pediatric patients with migraine and tension-type headache.	Brain & development. 2021Sep;43:826	Original Article
17	Iseki Takuya, Iseki Tomoya, Okahisa Shohei 他	整形外科	Total Hip Arthroplasty Concomitant with Patellofemoral Arthroplasty and Medial Patellofemoral Ligament Reconstruction for a Patient with Patellar Dislocation Combined with Hip Dysplasia: A Case Report of a Successful Outcome at 5-Year Follow-Up.	Case reports in orthopedics.2021Sep; 2021:9970975	Case report
18	Tatebayashi Kotaro, Uchida Kazutaka, Kageyama Hiroto 他	脳神経外科	Differences in Acute Ischemic Stroke Management and Prognosis between Multiple Large-Vessel Occlusion and Single Large-Vessel Occlusion: Subanalysis of the RESCUE-Japan Registry 2.	Cerebrovascular diseases (Basel, Switzerland). 2021Jul;50:397	Original Article
19	Shimomura Hideki, Hasunuma Hideki, Tokunaga Sachi 他	小児科	Early Developmental Signs in Children with Autism Spectrum Disorder: Results from the Japan Environment and Children's Study.	Children (Basel, Switzerland). 2022Jan;9:90	Original Article
20	Natsuaki Masahiro, Morimoto Takeshi, Shiomi Hiroki 他	皮膚科	Effects of Acute Coronary Syndrome and Stable Coronary Artery Disease on Bleeding and Ischemic Risk After Percutaneous Coronary Intervention.	Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society. 2021Apr;85:1928	Original Article
21	Honda Yosuke, Takahashi Keiko, Sasanuma Naoki 他	リハビリテーション 技術部	Predictors of Functional Decline in Activities of Daily Living at Discharge in Patients After Cardiovascular Surgery.	Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society. 2021Jun;85:1020	Original Article
22	Ogata Hiroki, Matsuki Yuka, Okamoto Takuma 他	麻酔科・ 疼痛制御科	Intra-operative nociceptive responses and postoperative major complications after gastrointestinal surgery under general anaesthesia. A prospective cohort study.	Eur J Anaesthesiol 2021Apr;38:1222	Original Article

23	Asakura Masanori, Ito Shin, Yamada Takahisa 他	循環器内科	Efficacy and Safety of Early Initiation of Eplerenone Treatment in Patients with Acute Heart Failure (EARLIER trial): a multicentre, randomized, double-blind, placebo-controlled trial.	European heart journal. Cardiovascular pharmacotherapy. 2022Feb;8:108	Original Article
24	Kataoka Kozo, Yamada Takeshi, Taniguchi Hiroya 他	下部消化管外科	A ctDNA-driven multidisciplinary treatment strategy for resectable colorectal cancer -what surgical oncologists should know-	European journal of surgical oncology : the journal of the European Society of Surgical Oncology and the British Association of Surgical Oncology.2021Oct;48:1	Original Article
25	Kihara Takako, Yuan Jiayin, Watabe Tadashi 他	病理診断科 (病理診断部門)	Pimipresib is effective on cecal GIST in a mouse model of familial GISTs with KIT-Asp820Tyr mutation through KIT signaling inhibition	Experimental and molecular pathology.2021Dec;123:1	Letter
26	Yokoyama Hiroshi, Takata Masashi, Gomi Fumi 他	眼科	One-year outcomes of microhook trabeculectomy versus suture trabeculectomy ab interno	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol	Original Article
27	Hashimoto Takuya, Minami Yoshiyasu, Ako Junya 他	精神科神経科	Validation of the atherothrombotic risk score for secondary prevention in patients with acute myocardial infarction: the J-MINJET study.	Heart and vessels. 2021Oct;36:1506	Original Article
28	Nagasawa Yasuyuki, Nanami Masayoshi, Kuragano Takahiro 他	総合内科	Melatonin and gestational hypertension.	Hypertension research. 2021Nov;44:1540	Original Article
29	Kanematsu Akihiro, Yamamoto Shingo	泌尿器科	Preservation of testicular tissue after enucleation of pediatric mature teratoma: A case series of 7 testes in 6 children.	IJU case reports.2021Sep;4:289	Case report
30	Kuwahara Masaatsu, Kamigaito Misa, Nitta Shou 他	救急科	Effect of Tocilizumab treatment on patients with coronavirus disease 2019 and bacteremia: a retrospective cohort study	Infect Dis Ther2022(11).2022Jan;2022:533	Original Article
31	Tanaka Takashi, Morishita Shinichiro, Hashimoto Masaki 他	リハビリテーション 技術部	Relationship between Physical function and Health Utility in Patients undergoing surgical treatment for Malignant Pleural Mesothelioma	Integrative Cancer Therapies. 2021Sep;20:Epub	Original Article
32	Kusunoki Yoshiki, Konishi Kosuke, Tsunoda Taku 他	糖尿病・内分泌・ 代謝内科	Significance of Glycemic Variability in Diabetes Mellitus	Internal Medicine. 2022Feb;61:281	Review
33	Nagasawa Yasuyuki, Misaki Taro, Ito Seigo 他	総合内科	IgA Nephropathy and Oral Bacterial Species Related to Dental Caries and Periodontitis.	International Journal of Molecular Sciences. 2022Jan;23:725	Review
34	Nagasawa Yasuyuki, Nomura Ryota, Misaki Taro 他	総合内科	Relationship between IgA Nephropathy and Porphyromonas gingivalis: Red Complex of Periodontopathic Bacterial Species.	International Journal of Molecular Sciences. 2021Dec;22:13022	Original Article

35	Nishioka Takafumi, Hasunuma Hideki, Okuda Masumi 他	小児科	Effects of Screen Viewing Time on Sleep Duration and Bedtime in Children Aged 1 and 3 Years: Japan Environment and Children's Study	International journal of environmental research and public health. 2022Mar;19:3914	Original Article
36	Nagasawa Yasuyuki, Nomura Ryota, Misaki Taro 他	総合内科	Relationship between IgA nephropathy and porphyromonas gingivalis: red complex of periodontopathic bacterial species.	International journal of molecular sciences. 2021Dec;22:13022	Original Article
37	Iwasaki Takahide, Fujimori Akira, Okada Shioko 他	腎・透析内科	Association between bone mineral density of the distal third of the radius and mortality in patients on hemodialysis, a retrospective cohort study.	Iranian journal of kidney diseases.2021Jul;15:306	Original Article
38	Horio Yuki, Uchino Motoi, Hori Kazutoshi 他	炎症性腸疾患外科	Clinical Features and Therapeutic Outcomes of Post-colectomy Enteritis with Ulcerative Colitis	J Anus Rectum Colon. 2020Oct0;5:405	Original Article
39	Sato Fumiya, Matsuki Yuka, Ogata Hiroki 他	麻酔科・疼痛制御科	Quantitative evaluation of the effects of interscalene block on physiological responses to the balance between nociception and anti-nociception among inpatients undergoing total shoulder arthroplasty under general anesthesia.	J Clin Monit Comput. 2021Dec;10.1007:021	Original Article
40	Hikasa Shinichi, Shimabukuro Shota, Hideta Kyoko 他	薬剤部	Effect of switching from tenofovir disoproxil fumarate to tenofovir alafenamide on estimated glomerular filtration rate slope in patients with HIV: A retrospective observational study	J Infect Chemother. 2022Mar;28:396	Original Article
41	Saito Takahiro, Okazaki Ken, Hamada Yuuki 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Therapeutic indications for sinonasal topical steroid treatment and its effects on eosinophilic chronic rhinosinusitis after endoscopic sinus surgery	J Laryngol Otol. 2021Oct;135:858	Review
42	Kuramoto Yoji, Fujita Mitsugu, Takagi Toshinori 他	脳神経外科	Early-phase administration of human amnion-derived stem cells ameliorates neurobehavioral deficits of intracerebral hemorrhage by suppressing local inflammation and apoptosis	J Neuroinflammation. 2022Feb;19:48	Original Article
43	Tatebayashi Kotaro, Yoshimura Shinichi, Sakai Nobuyuki 他	脳神経外科	Relationship Between Acute Neurological Function and Long-Term Prognosis in Patients with Large Arterial Occlusions	J Stroke Cerebrovasc. 2021Apr;30:105625	Original Article
44	Takata Masashi, Ishikawa Hiroto, Ikeda Tomohiro 他	眼科	Conventional Trabeculectomy versus Gonioscopy-Assisted Transluminal Trabeculectomy: A Retrospective Cohort Study	J. Clin. Med.2022Jan;11:46	Original Article
45	Gomi Fumi, Toyoda Reiko, Yoon Annabelle Hein 他	眼科	Factors of Anti-Vascular Endothelial Growth Factor Therapy Withdrawal in Patients with Neovascular Age-Related Macular Degeneration: Implications for Improving Patient Adherence	J. Clin. Med.2021Jul;10:3106	Original Article

46	Inoue Takayuki, Koyama Motoko, Kaida Katsuji 他	血液内科	Peri-transplant glucocorticoids redistribute donor T-cells to the bone marrow and prevent relapse after haploidentical SCT.	JCI Insight..2021Oct;153551:9999	Original Article
47	Kataoka Kozo, Fujita Shin, Inomata Masafumi 他	下部消化管外科	Challenges needed to be overcome in multi-institutional surgical trials: accumulated experience in the JCOG Colorectal Cancer Study Group (CCSG)	Japanese Journal of Clinical Oncology.2020Oct0;52:1	Original Article
48	Natsuaki Masaru	皮膚科	Tick bites in Japan	The Journal of Dermatology. 2021Apr;48:423	Review
49	Matsutani Masako, Imai Yasutomo, Inoue Yukako 他	皮膚科	Effectiveness and safety of tacrolimus ointment combined with dupilumab for patients with atopic dermatitis in real-world clinical practice.	The Journal of Dermatology.2021	Original Article
50	Naito Yoshiro, Tsujino Takeshi, Masuyama Tohru 他	循環器内科	Crosstalk between Iron and Arteriosclerosis.	Journal of atherosclerosis and thrombosis.2022Mar;29:308	Review
51	Asakura Masanori, Hibi Kiyoshi, Shimizu Wataru 他	循環器内科	Design and rationale of the EVOCATION trial: A prospective, randomized, exploratory study comparing the effect of evolocumab on coronary microvascular function after percutaneous coronary intervention in patients with stable coronary artery disease.	Journal of cardiology. 2022Jan;79:105	Original Article
52	Uchino Motoi, Ikeuchi Hiroki, Hata Keisuke 他	炎症性腸疾患外科	Does anti-tumor necrosis factor alpha prevent the recurrence of Crohn's disease? Systematic review and meta-analysis	Journal of gastroenterology and hepatology.2021Apr;36:864	Original Article
53	Kanto Ryo, Nakayama Hiroshi, Iseki Tomoya 他	整形外科	Mucoid degeneration of the posterior cruciate ligament in a college soccer player: a case report.	Journal of medical case reports.2021Jun;15:284	Case report
54	Iseki Takuya, Tsukada Sachiya, Wakui Motohiro 他	整形外科	Percutaneous periarticular analgesic injection at one day after simultaneous bilateral total knee arthroplasty: an open-label randomized control trial.	Journal of orthopaedic surgery and research.2021Jun;16:357	Original Article
55	Takeyama Ryu, Fukui Atsushi, Chuxian Mai 他	産科婦人科	Co-expression of NKp46 with activating or inhibitory receptors on, and cytokine production by, uterine endometrial NK cells in recurrent pregnancy loss	Journal of reproductive immunology.2021Apr;145:1	Original Article
56	Fukuyama Hisashi, Komuku Yuki, Gomi Fumi 他	眼科	Characteristics and treatment responses of cystoid retina associated with central serous chorioretinopathy	Jpn J Ophthalmol. 2021May;65:372	Original Article
57	Nagasawa Yasuyuki, Okumura Takahiro, Hara Yasuhiro 他	総合内科	Genetic deficiency of adipose triglyceride lipase is associated with a novel type of podocytopathy.	Kidney international reports. 2021Jul;6:2722	Original Article

58	Iseki Tomoya, Onishi Shintaro, Kanto Makoto 他	整形外科	Double-level osteotomy for severe varus osteoarthritic knees can prevent change in leg length and restore physiological joint geometry.	The Knee.2021Aug;31:136-43	Original Article
59	Nakayama Hiroshi, Kanto Ryo, Onishi Shintaro 他	整形外科	Hinge fracture in lateral closed-wedge distal femoral osteotomy in knees undergoing double-level osteotomy: assessment of postoperative change in rotational alignment using CT evaluation.	Knee surgery, sports traumatology, arthroscopy : official journal of the ESSKA.2021Oct;29:3337-45	Original Article
60	Futani Hiroyuki, Takaki Haruyuki, Sawai Tatsuo 他	整形外科	Long-term survival following radiofrequency ablation of lung metastases in an elderly patient with calcaneal osteosarcoma: A case report and review of the literature.	Medicine.2021Aug;100:e26681	Case report
61	Kitajima Kazuhiro, Yamamoto Shingo, Kawanaka Yusuke 他	放射線医療センター	Assessment of the viability and treatment response of bone metastases in patients with metastatic castration-resistant prostate cancer using choline PET/CT.	Medicine.2021Jun;100:e26206	Original Article
62	Iijima Hiroko, Watanabe Atsuko, Sukigara Haruna 他	肝・胆・膵内科	Four-carbon dicarboxylic acid production through the reductive branch of the open cyanobacterial tricarboxylic acid cycle in <i>Synechocystis</i> sp. PCC 6803.	Metabolic engineering. 2021May;65:88	Original Article
63	Azuma Naoto, Katada Yoshinori, Yoshikawa Takahiro 他	アレルギー・リウマチ内科	Evaluation of changes in oral health-related quality of life over time in patients with Sjögren's syndrome.	Modern rheumatology. 2021May;31:669	Original Article
64	Kanazawa Nobuo, Hemmi Hiroaki, Kinjo Noriko 他	皮膚科	Heterozygous missense variant of the proteasome subunit β -type 9 causes neonatal-onset autoinflammation and immunodeficiency	Nature Communications. 2021Nov;12:6819	Original Article
65	Kageyama Hiroto, Yoshimura Shinichi, Tatebayashi Kotaro 他	脳神経外科	Accuracy of Pedicle Screw Placement Comparing an Electronic Conductivity Device and a Multi-axis Angiography Unit with C-arm Fluoroscopy in Lumbar Fixation Surgery for Safety	Neurol Med Chir.2021May;61:334	Original Article
66	Yoshimura Shinichi, Uchida Kazutaka, Sakai Nobuyuki 他	脳神経外科	Randomized Clinical Trial of E	Neurol Med Chir (Tokyo). 2022Mar;62:156	Original Article
67	Uchida Kazutaka, Yoshimura Shinichi, Sakakibara Fumihiko 他	脳卒中センター	Simplified Prehospital Prediction Rule to Estimate the Likelihood of 4 Types of Stroke: The 7-Item Japan Urgent Stroke Triage (JUST-7) Score.	Prehospital emergency care : official journal of the National Association of EMS Physicians and the National Association of State EMS Directors.2021Jul;25:465	Original Article
68	Sasanuma Naoki, Sota Koichirou, Uchiyama Yuki 他	リハビリテーション技術部	Identification of the Exercise Load When Using a Balance Exercise Assist Robot	Progress in Rehabilitation Medicine.2021Dec;6:1	Case report

69	Morimoto Shota, Iseki Tomoya, Nakayama Hiroshi 他	整形外科	Return to the original sport at only 3 months after an Achilles tendon rupture by a combination of intra-tissue injection of freeze-dried platelet-derived factor concentrate and excessively early rehabilitation after operative treatment in a male basketball player: A case report.	Regenerative therapy. 2021Dec;18:112-6	Case report
70	Wakimoto Yu, Fukui Atsushi, Kojima Teruhito 他	産科婦人科	Sperm immobilization test and quantitative sperm immobilization test using frozen-thawed sperm preparation applied with computer-aided sperm analysis	Reproductive medicine and biology.2021May;20:321	Original Article
71	Kadoya Manabu, Morimoto Akiko, Kakutani Miki 他	糖尿病・内分泌・代謝内科	Sleep quality, autonomic dysfunction and renal function in diabetic patients with pre-CKD phase	Scientific Reports. 2021Nov;11:19048	Original Article
72	Utsunomiya Takeshi, Taniguchi Naoko, Taniguchi Yohei 他	小児科	Association between maternal insecticide use and otitis media in one-year-old children in the Japan Environment and Children's Study.	Scientific Reports. 2022Jan;12:1365	Original Article
73	Min Kyung-Duk, Asakura Masanori, Shirai Manabu 他	循環器内科	ASB2 is a novel E3 ligase of SMAD9 required for cardiogenesis.	Scientific Reports. 2021Nov;11:23056	Original Article
74	Minagawa Tomohiro, Ikeuchi Hiroki, Kusunoki Kurando 他	炎症性腸疾患外科	Gap polyposis treated with laparoscopic-assisted total proctocolectomy and ileal J-pouch anal anastomosis: a case report	Surgical Case Report. 2021Jun;7:153 page1	Case report
75	Yoshimura Shinichi, Uchida Kazutaka, Sakai Nobuyuki 他	脳神経外科	Correction to: Safety of Early Administration of Apixaban on Clinical Outcomes in Patients with Acute Large Vessel Occlusion	Translational stroke research. 2021Aug;12:692	Others
76	Yoshimura Shinichi, Uchida Kazutaka, Sakai Nobuyuki 他	脳神経外科	Safety of Early Administration of Apixaban on Clinical Outcomes in Patients with Acute Large Vessel Occlusion.	Translational stroke research. 2021Apr;12:266	Original Article
77	Maruo Keishi, Arizumi Fumihiro, Kusuyama Kazuki 他	整形外科	Comparison of Clinical Outcomes After Transforaminal Interbody Fusion Using Cortical Bone Trajectory versus Percutaneous Pedicle Screw Fixation.	World neurosurgery. 2021Jul;151:e821-7	Original Article

計10件

合計77件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有
・ 手順書の主な内容 審査及び審査の範囲、申請手続き、他の研究機関の研究にかかる倫理審査、倫理審査委員の教育、利益相反等について記載	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有
・ 規定の主な内容 COIマネジメント指針、マネジメント対象者及び対象事項、COIマネジメント委員会の設置及び運営、学外への情報公開等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年24回 (月1回及び随時)

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 【2021年度 研究者倫理講習会】	

日時：2021年6月25日

講師：厚生労働省医政局研究開発振興課 吉岡 恭子 氏

参加者： 666名 ※後日web配信による受講者を含む

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

初期臨床研修を修了した卒後 3 年目以上の医師を対象に専門医を目指すための専門的な研修を行う。当該研修においては、専攻分野ごとに研修プログラムを策定し、研修目標・到達目標の設定や、年次ごとのカリキュラムの設定を通して、効果的な研修が実施できるよう配慮している。
なお、多数の症例を経験させるために、関連病院とも協働して研修を実施している。
また、専攻分野によっては、研修期間中に大学院へと進学し、研究を行うことを可能としているものもある。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	188.3人
-------------	--------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
澤田 暁宏	血液内科	助教	26年	
橋本 哲平	アレルギー・ リウマチ科	講師	15年	
西村 貴士	肝・胆・膵内科 超音波センター	講師	21年	
小西 康輔	糖尿病・内分泌・代 謝内科	講師	29年	
栗林 康造	呼吸器内科 がんセンター	教授	27年	
武田 正中	脳神経内科	教授	38年	
名波 正義	腎・透析内科	講師	25年	
赤堀 宏州	循環器内科	講師	19年	
奥川 卓也	内視鏡センター	講師	16年	
横山 陽子	消化管内科	助教	17年	
山崎 博充	総合内科	助教	15年	
清野 仁美	精神科神経科	講師	26年	
柴田 暁男	小児科	講師	21年	
多田 正晴	肝・胆・膵外科	講師	26年	
野瀬 聡子	小児外科	講師	23年	
倉橋 康典	上部消化管外科	講師	25年	
別府 直仁	下部消化管外科	講師	18年	
桑原 隆一	炎症性腸疾患外科	講師	12年	
永橋 昌幸	乳腺・内分泌外科	准教授	20年	
山村 光弘	心臓血管外科	講師	35年	
橋本 昌樹	呼吸器外科	講師	17年	
井石 琢也	整形外科	助教	12年	
西本 聡	形成外科	教授	32年	
白川 学	脳神経外科	准教授	24年	

和田 吉弘	皮膚科	助教	8年
山本 新吾	泌尿器科	主任教授	35年
福井 淳史	産科婦人科	准教授	27年
吉田 由美子	眼科	助教	19年
伏見 勝哉	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	助教	13年
富士原 将之	放射線科	講師	24年
狩谷 伸享	麻酔科・疼痛制御科 ペインクリニック部	教授	30年
白井 邦博	救命救急センター	講師	30年
竹田 健太	ICU	准教授	23年
道免 和久	リハビリテーション 部	主任教授	36年
山崎 隆	病院病理部	助教	15年
宮崎 彩子	臨床検査部	准教授	29年
中嶋 一彦	感染制御部	准教授	26年
野口 一馬	歯科口腔外科	准教授	31年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

【1】医療安全管理に関する研修

- ① 医療講演会「兵庫医科大学病院における医療安全管理体制について」「兵庫医科大学病院での患者安全の確保について」「未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関すること」「高難度新規医療技術を用いた医療提供に関すること」
- ② 医療講演会「静脈血栓塞栓症予防ガイドラインの改訂について」「プレアボイドとは」「COVID-19の最新情報と新規病床の運用について」
- ③ 医療講演会「医療機器安全研修」（「ME全般・人工呼吸器・除細動器・保育器」「血液浄化装置」「補助循環装置」）
- ④ 医療講演会「医療放射線に関する安全管理について」「医療ガスの安全な使用方法」
- ⑤ 医療講演会「糖尿病患者の治療ガイド」「高カリウム血症患者の治療ガイド」
- ⑥ 医療講演会「電子カルテのバージョンアップに伴う画像および病理検査所見の安全対策」「アレルギー情報と入力に関する申し合わせ」
- ⑦ 医療講演会「輸血の安全な管理と投与」「血液製剤の取り扱いおよび輸血検査用検体について」「超ハイリスク症例の術前合同カンファレンスについて」

【2】病院感染対策に関する研修

- ① 第1回院内講演会「COVID-19の最新情報と新規病床の運用について」
- ② 第2回院内講演会「クリーンハンドキャンペーン」
- ③ 第3回院内講演会「抗菌薬適正使用とTDM」
- ④ 第4回院内講演会「当院における耐性菌の現状と耐性菌対策」
- ⑤ 第5回院内講演会「抗真菌薬の適正使用」

・研修の期間・実施回数

【1】医療安全管理に関する研修（全てe-LearningおよびDVD貸出で実施）

- ① 2021/5/24～
- ② 2021/6/21～
- ③ 2021/7/19～
- ④ 2021/8/23～
- ⑤ 2021/9/20～
- ⑥ 2021/10/18～
- ⑦ 2021/11/22～

【2】病院感染対策に関する研修（第2回クリーンハンドキャンペーンは、実習による研修、その他の講演会については、全てe-LearningおよびDVD貸出で実施）

- ① R3. 6. 21～ ②R3. 8. 16～20、R3. 9. 13～17、R3. 10. 20～21 ③R3. 12. 3～ ④R4. 3. 11～
- ⑤R4. 3. 25～

・研修の参加人数

【1】医療安全管理に関する研修

- ① 2,065名
- ② 2,337名
- ③ 1,181名
- ④ 1,011名
- ⑤ 853名
- ⑥ 1,117名
- ⑦ 728名

【2】病院感染対策に関する研修

※参加人数は実習参加およびe-Learning、DVD貸出の全てを含む

① 2,556名 ② 2,518名 ③ 1,153名 ④ 351名 ⑤221名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

- ① 看護部：リンクナース/感染防止委員「手指衛生」
- ② 看護部：リンクナース/感染防止委員「CDIの感染対策」
- ③ 看護部：リンクナース/感染防止委員「耐性菌/接触予防策適用判断シート実施率
フィードバック」
- ④ 看護部：看護師ラダー「手指衛生」
- ⑤ 研修医：研修医1年目、2年目「抗菌薬の選択の考え方」
- ⑥ 看護部：リンクナース/感染防止委員「手指衛生」
- ⑦ 看護部：クラーク「新型コロナウイルス感染対策 耐性菌対策について」
- ⑧ 看護部：看護助手「感染管理について」
- ⑨ 看護部：看護師ラダー「人工呼吸器関連肺炎予防策」
- ⑩ 看護部：リンクナース/感染防止委員「手指衛生 接触予防策適用状況」
- ⑪ 看護部：看護師ラダー「カテーテル関連血流感染（CRBSI）予防策」
- ⑫ 看護部：看護師ラダー「カテーテル関連尿路感染（CAUTI）予防策」
- ⑬ 看護部：看護師ラダー「耐性菌対策をマスターして部署で頼れる存在になろう」

・研修の期間・実施回数

- ① R3.6.10
- ② R3.7.8
- ③ R3.7.8
- ④ R3.8.3、8.11（2回）
- ⑤ R3.9.3

⑥ R3. 9. 8

⑦ R3. 10. 6

⑧ R3. 10. 8

⑨ R3. 10. 15

⑩ R3. 11. 11

⑪ R3. 11. 19、26、12. 7、17

⑫ R3. 11. 19、26、12. 7、24

⑬ R4. 3. 17

・研修の参加人数

① 45名 ② 45名 ③ 45名 ④ 107名 ⑤ 10名 ⑥ 45名 ⑦ 22名 ⑧ 110名 ⑨ 10名

⑩ 45名 ⑪ 102名 ⑫ 89名 ⑬ 27名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 阪上 雅史
管理担当者氏名	管理課長 鈴木 明良、 医事課長 福田 禎夫 医療マネジメント課長 川上 健太、 薬剤部長 木村 健

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	病院日誌	管理課
		各科診療日誌	診療各科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	医療マネジメント課、診療各科
		看護記録	診療各科
		検査所見記録	医療マネジメント課、診療各科
		エックス線写真	医療マネジメント課
		紹介状	医療マネジメント課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療マネジメント課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	管理課
		高度の医療の提供の実績	管理課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究推進課
		高度の医療の研修の実績	医療人教育課
		閲覧実績	—
		紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	管理課 薬剤部
		電子媒体及び紙媒体をファイリングすることで管理している。	

	規則 第一 条の 十一 第一 項に 掲げ る事 項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	電子媒体及び紙媒体をファイリングすることで管理している。 一部指針等については院内向けホームページでも公開している。
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
		保管場所		管理方法
病院の管 理及び運 営に関す る諸記録	規則 第一 条の 十一 第二 項第 一号 から 第三 号ま でに 掲げ る事 項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	電子媒体及び紙媒体をファイリングすることで管理している。 一部指針等については院内向けホームページでも公開している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部 医療マネジメント課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 管理課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部 管理課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療情報管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部 感染制御部 管理課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部
		職員研修の実施状況	医療安全管理部 感染制御部 管理課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
管理者が有する権限に関する状況	管理課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	内部監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部長 小寺 斉人
閲覧担当者氏名	管理課長 鈴木 明良、医事課長 福田 禎夫 医療マネジメント課長 川上 健太
閲覧の求めに応じる場所	管理課会議室、医事課会議室
閲覧の手続の概要 諸記録の閲覧を請求できる者である病院に患者を紹介しようとする医師及び歯科医師並びに国及び地方公共団体は、当院病院事務部長に「兵庫医科大学病院諸記録閲覧申請書」に必要事項を記入の上申請を行うことで閲覧の許可を得ることができる。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> I. はじめに II. 医療安全管理体制確保のための委員会規約 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理規程 <ul style="list-style-type: none"> 医療安全管理体制 職員に対する教育・研修に関する事項 医療事故発生時の対応・報告・分析等に関する事項 ・ 医療安全管理者の業務指針 III. 当院における医療安全管理体制図 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療事故発生時の対応 ・ 院内救急医療体制 ・ 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する事項 ・ 患者からの相談への対応に関する事項 IV. 院内死亡患者における届出について V. 兵庫医科大学病院における異状死体の届出に関する基準 VI. 医療事故を起こした職員・当該部署職員への心理的支援について VII. 患者相談に関するフローチャート VIII. 大学附属病院における医療上の事故等の公表に関する指針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（有） <ul style="list-style-type: none"> ①医療の質・安全審議委員会 ②医療リスクマネジメント委員会 ・ 開催状況：医療の質・安全審議委員会 15回 医療リスクマネジメント委員会 12回 <p>活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ①医療の質・安全審議委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定機能病院承認要件に関すること ・ 医療事故の原因究明・再発防止に関すること ・ 医療事故の公的機関（報道機関を含む）への報告に関すること ・ 医療事故の事後措置に関すること ・ 医療訴訟に関すること ・ 各委員会における審議内容等の監査に関すること ・ 改正医療法に関すること ②医療リスクマネジメント委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療にかかる医療安全管理のための指針に関すること ・ 医療事故発生時の対応に関すること ・ 医療事故の分析、改善策の立案、実施及び職員への周知に関すること ・ セイフティマネージャーの活動に関すること ・ 医療安全管理に関する職員の教育・研修に関すること <p style="text-align: right;">など</p> 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年7回

- ・ 研修の内容（すべて）：
医療講演会（全てe-LearningおよびDVD貸出で実施）

第1回 2021/5/24～

- 「兵庫医科大学病院における医療安全管理体制について」
- 「兵庫医科大学病院での患者安全の確保について」
- 「未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関すること」
- 「高難度新規医療技術を用いた医療提供に関すること」

第2回 2021/6/21～

- 「静脈血栓塞栓症予防ガイドラインの改訂について」
- 「プレアボイドとは」
- 「COVID-19の最新情報と新規病床の運用について」

第3回 2021/7/19～

- 「医療機器安全研修」
- ・ 「ME全般・人工呼吸器・除細動器・保育器」
- ・ 「血液浄化装置」
- ・ 「補助循環装置」

第4回 2021/8/23～

- 「医療放射線に関する安全管理について」
- 「医療ガスの安全な使用方法」

第5回 2021/9/20～

- 「糖尿病患者の治療ガイド」
- 「高カリウム血症患者の治療ガイド」

第6回 2021/10/18～

- 「電子カルテのバージョンアップに伴う画像および病理検査所見の安全対策」
- 「アレルギー情報と入力に関する申し合わせ」

第7回 2021/11/22～

- 「輸血の安全管理と投与」
- 「血液製剤の取り扱いおよび輸血検査用検体について」
- 「超ハイリスク症例の術前合同カンファレンスについて」

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有）
 - ・ その他の改善のための方策の主な内容：
- ① 発生したインシデント・アクシデントに対して、部長、副部長、専従セイフティマネージャーが発生部門のセイフティマネージャーと共に、内容分析、改善策の検討並びに患者・家族への対応の指示を行う。医療リスクマネジメント委員会委員及び各部署のセイフティマネージャーから構成される「オンラインインシデント検討会」を毎週開催し、部門に改善策の助言提案を行う。
 - ② 報告のあった医療事故に対し、医療の質・安全審議委員会等で原因を分析し、改善策の検討を行う。迅速な対応が必要な場合、臨時で医療の質・安全審議委員会および医療事故等検討部会を開催し、原因分析・対応策の検討を行う。事案に応じて事故発生1か月後・3か月後（必要時6ヶ月後）に医療安全管理部（専従SM）と当該部署のセイフティマネージャーが、改善策の実施状況を検証し、医療の質・安全審議委員会に報告している。
 - ③ 発生したインシデント・アクシデント内容によりテーマを設定し、看護部事故防止委員会・各部署のセイフティマネージャーと連携して、院内監査ラウンドなどを実施している。
 - ④ 毎年6月と2月の医療安全強化月間には、テーマを決め各部署の安全への取り組みを奨励支援している。同時に医療リスクマネジメント委員会の委員

のラウンドを企画し、広く現場の現状を把握し他部署の見学・現場確認をするなどの機会となっている。

- ⑤ 医療安全NEWSを毎月発行し、当院のインシデント・アクシデント情報・再発防止策・事故後の検証結果、他施設の事故事例、医療安全情報（厚生労働省・各種学会・PMDA等）などを掲載し、職員に周知している。
- ⑥ 初期研修医に対し、インシデント発生要因の分析や再発防止策を検討する機会を設け、医療リスクマネジメント委員会等で報告することによって、医療安全意識のボトムアップ効果と将来的な医師によるインシデント報告の増加を目指し、医療安全教育の一環として行っている。
- ⑦ 医療安全管理部の下部組織である「エコーガイド下CVC挿入推進チーム」と共に安全な医療提供にむけ臨床現場での課題の把握と対策の実施、及び職員教育を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>①感染管理に関する基本的な考え方 ②感染管理体制 ③職員の教育・研修 ④感染症の発生時の報告 ⑤感染症の発生状況の報告 ⑥感染症の発生時の対応 ⑦病院感染対策のための指針の閲覧 ⑧病院感染対策のための指針の見直し・改正</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>病院感染対策に関する事項を調査・審議し、院内感染症発生時の原因の分析、改善策の立案、実践、周知等感染管理を推進している。なお、必要があるときには臨時で開催する。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 43 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>病院感染制御に対する基本的な考え方及び具体的施策の周知、業務を遂行する上での知識・技能の向上及び病院感染制御に対する意識の高揚を目的として、教育・研修を実施している。</p> <p>●病院感染制御をテーマとする講演会を開催(全職員対象) …年5回</p> <p>1. R3. 6. 21～ 第1回院内講演会 テーマ「COVID-19の最新情報と新規病床の運用について」</p> <p>2. R3. 8. 16～20、R3. 9. 13～17、R3. 10. 20～21 第2回院内講演会 テーマ「クリーンハンドキャンペーン」</p> <p>3. R3. 12. 3～ 第3回院内講演会 テーマ「抗菌薬適正使用とTDM」</p> <p>4. R4. 3. 11～ 第4回院内講演会 テーマ「当院における耐性菌の現状と耐性菌対策」</p> <p>5. R4. 3. 25～ 第5回院内講演会 テーマ「抗真菌薬の適正使用」</p> <p>●新採用（異動）者を対象とした研修</p> <p>R3. 4. 1～ テーマ「病院感染予防策の基本」（4月～採用職員）</p> <p>R3. 4. 5～6 テーマ「院内感染対象の実践」（4月採用臨床研修医）</p>	

R3. 4. 2

テーマ「感染対策の基本～キ・ホ・ンの”キ”～」(4月採用看護職者)

R3. 4. 7

テーマ「感染対策の基本～手洗い、手指消毒、個人防護具の実践～」(4月採用看護職者)

R3. 4. 1～R4. 3. 31 (毎月開催)

テーマ「新入職時院内感染対策研修(オリエンテーション)」(中途採用病院職員対象)

テーマ「手指衛生および個人防護具について」(救急研修医ローテイト開始時)

●職種別研修 (以下の職種を対象に研修、教育、指導を実施)

1. R3. 6. 10

テーマ「手指衛生」(感染リンクナース)

2. R3. 7. 8

テーマ「CDIの感染対策」(感染リンクナース)

3. R3. 7. 8

テーマ「耐性菌/接触予防策適用判断シート実施率フィードバック」(感染リンクナース)

4. R3. 8. 3、8. 11 (2回)

テーマ「手指衛生」(看護師ラダー)

5. R3. 9. 3

テーマ「抗菌薬の選択の考え方」(研修医1年目、2年目)

6. R3. 9. 8

テーマ「手指衛生」(感染リンクナース)

7. R3. 10. 6

テーマ「新型コロナウイルス感染対策 耐性菌対策について」(クラーク)

8. R3. 10. 8

テーマ「感染管理について」(看護助手)

9. R3. 10. 15

テーマ「人工呼吸器関連肺炎予防策」(看護師ラダー)

10. R3. 11. 11

テーマ「手指衛生 接触予防策適用状況」(感染リンクナース)

11. R3. 11. 19、26、12. 7、17

テーマ「カテーテル関連血流感染(CRBSI)予防策」(看護師ラダー)

12. R3. 11. 19、26、12. 7、17

テーマ「カテーテル関連尿路感染(CAUTI)予防策」(看護師ラダー)

13. R4. 3. 17

テーマ「耐性菌対策をマスターして部署で頼れる存在になろう」（看護師ラダー）

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

病院で取り決めた感染症発生時は、マニュアルに従って、各診療科より報告される。緊急対応が必要な病原体は別途定め「感染症発生時の対応パターン分類」に基づいて対応し、必要により感染対策委員会で審議の上、対策を講じている。

耐性菌については「レベル別分類」を別途設けており、レベルに応じた対策を講じる。耐性菌検出時は即時に対応しており、保菌者に対しても感染管理ラウンドにより感染対策の実践状況を評価し適宜介入する。

アウトブレイクを疑う事例が発生した場合は、「アウトブレイク発生時の対応」に基づき対応する。アウトブレイクの可能性が高いと判断した場合、感染制御部による原因の究明ならびに感染拡大防止策を実施する。更にレベル4以上の多剤耐性菌については、1例目の検出からアウトブレイク対応として迅速に対応することとしている。

院内の感染症治療および抗菌薬の適正使用支援に関しては、抗菌薬適正使用支援ラウンドとして、感染症治療に関するコンサルテーションに対する対応、ICUでの重症患者治療、無菌検体から検出した病原体への治療介入、新規耐性菌に対する感染症の評価（必要時治療介入）およびタゾバクタム/ピペラシリンとカルバペネム系抗菌薬使用症例の翌日および使用後の72-96時間後の評価とフィードバックを行う。抗緑膿菌活性を有する抗菌薬の使用割合をDOT（1000患者日あたりの使用日数）で評価し、カルバペネム系25%、タゾバクタム/ピペラシリン35%、第4世代セファロスポリン系/セフトジジム25%、ニューキノロン系15%を目標として使用割合をコントロールし、抗菌薬の適正使用を推進している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年4回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>① 新規採用職員対象入職時研修 令和3年4月1日～ テーマ 「医薬品の安全管理について」 講師 兵庫医科大学病院 薬剤部 木村 健</p> <p>② 臨床研修医オリエンテーション 令和3年4月5日 テーマ 「医薬品の安全使用について」 講師 兵庫医科大学病院 薬剤部 木村 健</p> <p>③ 新人看護職員研修 令和3年4月2日 テーマ 「セイフティマネジメント」(薬剤の取り扱い含む) 講師 兵庫医科大学病院 医療安全管理部 高橋 正子</p> <p>④ 医療講演会 令和3年6月21日～ テーマ 「プレアボイドとは」 講師 兵庫医科大学病院 医療安全管理部 峯下 真実子</p> <p>⑤ その他 病棟薬剤師などから各診療科・病棟スタッフに対して医薬品安全管理に関するレクチャーを実施 (例：化学療法施行の注意事項・副作用について、新規薬剤の投与・溶解方法・運用方法等(ベクルリー、ゼビュディなど)について、KCL注の適正使用について、電子カルテでのアレルギー入力について、簡易懸濁法についてなど 令和3年4月～令和4年3月までで480件)</p> <p>※covid-19対策のため、①、④ e-learningおよびDVD貸出で実施</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院で用いる医薬品の採用・購入などに関する事項 ・ 医薬品の管理に関する事項 ・ 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 ・ 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 ・ 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 ・ 他施設との連携に関する事項 ・ 放射性医薬品の取り扱いに関する事項 ・ 院内製剤の調製及び使用に関する事項 ・ 未承認新規医薬品等の使用に関する事項 ・ 未承認等の医薬品の使用に関する事項 <p>医薬品の安全使用のための業務手順書に基づく業務の実施については、業務確認票を用いてセイフティマネージャーと薬剤師で相互にチェックを行い、医薬品安全管理責任者に報告し確認が行われている。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： 未承認等の医薬品(適応外使用又は禁忌使用)は、各診療科が未承認新規医薬品等評価委員会に</p>	

届け出ることによって病院として把握するシステムが構築されている。具体的な使用事例としては、ステロイド不応性の特発性間質性肺炎に対するネオオーラル、エンドキサンの使用が日本呼吸器学会のガイドラインに基づき使用していることが報告されている。

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ 保険診療等で適用が承認されていない治療や薬品等の使用を行い緊急避難的な治療を行う場合、医療倫理委員会に申請して審査を受けることができる。
 - ・ 医師の処方した薬剤の使用が未承認医薬品の使用若しくは適応外又は禁忌等の使用方法に該当することを発見した医師・薬剤師等は、薬学的見地に基づき必要に応じて処方した医師等に対して、処方の必要性や妥当性等を確認し処方の変更等の提案を行っている。
 - ・ 緊急安全性情報、安全性速報などの迅速な対応を必要とする情報提供はその経過の記録を保管している。その他、必要に応じて医薬品適正使用のために周知すべき注意喚起情報は、月1回の医療安全ニュースに掲載し、その閲覧状況を確認している。
 - ・ 医薬品安全管理責任者に指名された担当者は、院内の医薬品の使用状況を月一回程度定期的に確認し、その結果を踏まえて添付文書情報(禁忌等)、緊急安全性情報、安全性速報、未承認医薬品の使用時又は医薬品の適応外使用時等の医薬品安全管理に関わる情報を整理し、必要に応じてその結果を医薬品安全管理責任者に報告している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 119 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 以下の機器を中心に取り扱い方法・安全対策について研修を行っている <ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器 ・血液浄化装置 ・除細動器 ・補助循環装置 ・不整脈治療関連機器 ・保育器 ・輸液ポンプ ・医療ガス ・放射線機器等 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 以下の装置に対しては定期点検（外観点検，機能点検，作動点検）を実施している <ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器 ・血液透析装置 ・血液浄化装置 ・補助循環装置 ・保育器 ・体外式ペースメーカー ・輸液ポンプ ・シリンジポンプ ・経管栄養ポンプ ・除細動器 ・電気メス ・生体情報モニタ ・麻酔器 ・放射線機器 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任者の資格 (医師) 歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 ・ 医療安全管理責任者は、医療安全管理者(医療安全管理部部長、専従セイフティマネージャー)とともに、病院長から委譲された権限に基づいて安全管理に関する院内の体制を構築し、医療リスクマネジメント委員会の円滑な運営を図っている。 ・ 医療安全管理責任者は、医療リスクマネジメント委員会を開催、議事進行を行い、決議事項を病院長に報告している。 ・ 医療安全管理責任者は、医療安全管理部の構成員である医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者と連携し、職種・部門間の調整を図りながら、医薬品、医療機器および診療用放射線の安全使用が確保されるように業務を行っている。 ・ 医療安全管理責任者は医療安全管理に関する必要な情報を医療安全管理部長より報告を受ける。重篤な有害事象に対しては、医療の質・安全審議委員会に出席し、審議する。 	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(4名)
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品安全管理責任者が指名した薬剤師(医薬品安全管理者)が、院内の医薬品の使用状況を月一回程度定期的に確認し、その結果を踏まえて添付文書情報、緊急安全性情報、未承認医薬品の使用時又は医薬品の適応外使用時等の医薬品安全管理に係る情報を整理し、必要に応じてその結果を医薬品安全管理責任者に報告している。医薬品安全管理責任者は報告された情報を踏まえて、必要に応じて医薬品安全管理者に指示してDIニュースで当該情報を院内に通知している。特に重要な情報については医療安全ニュースの「医薬品安全使用のための注意喚起情報」に掲載し、その周知状況については全診療科の閲覧記録を確認している。また、これらの手順は医薬品の安全使用のための業務手順書に記載して院内に周知している。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認等の医薬品(適応外使用又は禁忌使用)は、各診療科が未承認新規医薬品等評価委員会に届け出ることで病院として把握するシステムが構築されている。未承認新規医薬品等評価委員会が必要に応じて当該診療科に対して指導を行う。また、医薬品が適応外又は禁忌等で使用されたことを発見した医師・薬剤師等は、薬学的見地に基づいて必要に応じて処方した医師等に対して疑義照会を行う。 ・ 担当者の指名の有無(有) ・ 担当者の所属・職種: (所属: 薬剤部, 職種: 薬剤師) 	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無(有) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内 	

容：インフォームドコンセントワーキングを設置し、規定に基づき説明文書・同意書等の審査承認を行い、診療情報管理室において管理統括している。また、全診療科を対象に、多職種の診療録管理委員がチームとなり、対象診療科の医師（病棟医長）並びに看護師長立ち会いの下、「オーディット」を実施している。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>責任者には病院長の直轄下に、診療情報管理室長（医師）を設置（選任）しており、診療情報管理士による診療録管理の統轄を行っている。また毎年全診療科を対象に、診療録管理委員の医師、看護師、診療情報管理士がチームとなり、診療科の医師（病棟医長）並びに看護師長立ち会いの下、「オーディット」を実施している。さらに、診療録管理委員会による診療録記載ルールの策定、医療者への指導を行っている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有
<p>・所属職員：専従（4）名、専任（ ）名、兼任（15）名 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（8）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（1）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> ①安全管理体制の構築、委員会の運営、指針、マニュアルの改訂など ②医療事故を防止するための情報収集、分析、改善策の立案、フィードバック、評価 ③改善策実施のための各部門への依頼、調整、助言 ④安全管理対策の実施状況の調査、分析 ⑤セイフティマネージャーの活動支援 ⑥医療安全に関する職員への教育・研修の実施 ⑦医療事故への対応：届出・公表を含む事故発生後の対応、事故の要因分析 ⑧全死亡事例の検証（院内死亡患者届出票・死亡患者リスト） <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（1件）</p> <p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医</p>	

療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）

・活動の主な内容：

- ① 医療安全管理部の求めるところにより、当該高難度新規医療技術の提供に関する倫理的・科学的な妥当性、本院で当該高難度新規医療技術を提供することの適切性並びに当該高難度新規医療技術の適切な提供方法（科学的根拠が確立していない医療技術については、有効性及び安全性の検証の必要性や、本院の体制等を勘案した上で、臨床研究として実施する等、科学的根拠の構築に資する実施方法について検討することを含む。）について審査を行い、当該高難度新規医療技術の提供の適否及び提供後に報告をを求める症例数等について評価する。
- ② 前号において評価した結果を、兵庫医科大病院医療の質・安全審議委員会及び医療安全管理部長に対し適否結果意見書（答申書）により答申する。
- ③ 1号で決定した報告をを求める症例（数）に対し、術後1年間の経過を医療安全管理部が追跡観察し、当該委員会に報告する。
- ④ 高難度新規医療技術として承認を受けた技術に対して、医療安全管理部が6カ月ごとに安全に実施されているか否かのモニタリングを行い、当該委員会に報告している。
- ⑤ その他、高難度新規医療技術の適切な提供方法に関すること。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（0件）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）

・活動の主な内容：

診療科の長から提出された未承認新規医薬品等の申請内容を確認し、未承認新規医薬品等評価委員会に対して当該未承認新規医薬品等を用いた医療提供の適否、実施を認める条件等について意見を求めている。評価委員会からの意見に基づき適否等について決定し、申請を行った診療科の長に対し適否結果通知書により通知を行い、また適否等の決定については病院長に報告を行っている。診療科の長は当該未承認新規医薬品等を用いた医療を提供した後、未承認新規医薬品等評価委員会が定める症例数、及び患者が死亡した場合、その他必要とされる場合には、未承認新規医薬品等実施報告書を当部門に提出することになっている。また承認後1年毎に患者使用状況を提出することになっており、それに基づき診療録等の記載内容の確認を行い、当該未承認新規医薬品等を用いた医療が適正な手続きに基づいて提供されているかどうか確認している。また遵守状況の確認後はその内容を病院長に報告している。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有） ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有）
<p>⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 588 件 ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 94 件 ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 影響レベル 3b 以上の事例・事象は『事実関係報告書』を提出することとして、予期せぬ合併症、重篤な合併症事例の報告を受け委員会で検討している。 死亡事例報告に関しては、平成 28 年 7 月から『院内死亡患者届出票』の様式・運用を決定し提出を促して運用している。
<p>⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他の特定機能病院等への立入り（<input checked="" type="checkbox"/>）（病院名：東京医科大学病院）・無 ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ（<input checked="" type="checkbox"/>）（病院名：東京医科大学病院）・無 ※covid-19 対策のため、書類のやり取りで実施。 ・ 技術的助言の実施状況 東京医科大学から当院に対する技術的助言項目はありません。
<p>⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体制の確保状況 患者及び患者家族からの相談は、医療支援センターを窓口としている。内容に応じて医療安全管理部、管理課医療安全係に連絡が入ることとなっている。また、診療科、病棟・外来を介しても医療安全管理部に連絡が入るので、その都度対応している。患者相談に応じる為、メディエーター研修等を受講している。

<p>⑫ 職員研修の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の実施状況 医療講演会 年 7 回
<p>①「兵庫医科大学病院における医療安全管理体制について」「兵庫医科大学病院での患者安全の確保について」「未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関する事」「高難度新規医療技術を用いた医療提供に関する事」</p> <p>②「静脈血栓塞栓症予防ガイドラインの改訂について」「プレアボイドとは」</p> <p>③「医療機器安全研修」</p>

(「ME全般・人工呼吸器・除細動器・保育器」「血液浄化装置」「補助循環装置」)

- ④「医療放射線に関する安全管理について」「医療ガスの安全な使用方法」
- ⑤「糖尿病患者の治療ガイド」「高カリウム血症患者の治療ガイド」
- ⑥「電子カルテのバージョンアップに伴う画像および病理検査所見の安全対策」「アレルギー情報と入力に関する申し合わせ」
- ⑦「輸血の安全管理と投与」「血液製剤の取り扱いおよび輸血検査用検体について」「超ハイリスク症例の術前合同カンファレンスについて」

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

特定機能病院管理者研修

【受講者】	【日付】
管理者	2022. 1. 19
医療安全管理責任者	2022. 2. 14
医薬品安全管理者	2021. 12. 23
医療機器安全管理責任者	2022. 1. 19

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

2022年8月19日付認定(一般病院3)

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

ホームページ上に公表予定

・評価を踏まえ講じた措置

調整中

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 「人格、学識ともすぐれ、医療安全管理業務の経験、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力等、医療安全確保のために必要な資質・能力を備え、かつ兵庫医科大学病院の理念に沿い、病院の管理運営に必要な資質・能力を有する者」（兵庫医科大学病院長選考規程 第3条第1項に規定） ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（有） ・ 公表の方法 本学ホームページ

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有） ・ 公表の方法 				
<p>管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由</p> <p>上記候補者は2012年から5年間、医療安全管理部長を務め、本院の医療安全システムの構築や多職種共同による医療安全管理を推し進めた。また、2019年に病院長に就任してからは、病院収支の改善に努め、2019年には過去最高の予算収支差を挙げ、2020年以降のコロナ禍においても減収を最低限にとどめるなどの功績を有している。</p> <p>さらに、2016年から新病院建設準備室長、2017年からは新病院建設担当理事として、基本構想・基本計画・基本設計をまとめ、新病院建設の中核を担う人物である。</p> <p>このようなことから「兵庫医科大学に求められる次期病院長像」および「兵庫医科大学病院 病院長選考規定」に定める資質・能力および実績を十分に有していると認められるため。</p>				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
西岡 清	学校法人兵庫医科大学常務理事	○	病院長選考規程第5条病院長選考委員会の組織 第1号に該当	有

野口 光一	兵庫医科大学学長		病院長選考規程第 5 条病院長選考委員会の組織 第 1 号に該当	有
藤岡 宏幸	兵庫医療大学学長		病院長選考規程第 5 条病院長選考委員会の組織 第 1 号に該当	有
小山 英則	兵庫医科大学 糖尿病内分泌・免疫内科学主任教授		病院長選考規程第 5 条病院長選考委員会の組織 第 2 号に該当	有
長谷川誠紀	兵庫医科大学 呼吸器外科学主任教授		病院長選考規程第 5 条病院長選考委員会の組織 第 2 号に該当	有
丸山美津子	兵庫医科大学病院 看護部部長		病院長選考規程第 5 条病院長選考委員会の組織 第 3 号に該当	有
琴浦 規子	兵庫医科大学病院 放射線技術部部長		病院長選考規程第 5 条病院長選考委員会の組織 第 3 号に該当	有
小寺 斉人	兵庫医科大学病院 病院事務部長		病院長選考規程第 5 条病院長選考委員会の組織 第 4 号に該当	有
林 紀夫	関西労災病院病院 長		病院長選考規程第 5 条病院長選考委員会の組織 第 5 号に該当	無
木内 淳子	滋慶医療科学大学 大学院教授		病院長選考規程第 5 条病院長選考委員会の組織 第 5 号に該当	無

規則第 9 条の 2 3 第 1 項及び第 2 項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 病院の管理運営に関して情報交換、情報共有を行うとともに、病院運営の円滑化、効率化や病院経営の健全化に向け必要かつ重要な事項を審議する（合議体名：病院幹部会議 月2回開催） ・ 審議の概要の従業者への周知状況 病院部長会、医局長会議等にて周知を行う。 また、当該合議体である病院幹部会議の規程第2条において、病院部長会への報告と職員の周知が定められている ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（有） ・ 公表の方法 院内ホームページに掲載 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（有） 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
阪上 雅史	○	医師	病院長
廣瀬 宗孝		医師	副院長
石原 正治		医師	副院長
池内 浩基		医師	副院長
木島 貴志		医師	副院長、がんセンター長
篠原 尚		医師	副院長
丸山 美津子		看護師	副院長・看護部長
木村 健		薬剤師	薬剤部長
琴浦 規子		放射線技師	放射線技術部長
狩野 春艶		臨床検査技師	臨床検査技術部長
小寺 斉人		事務職員	病院事務部長
中嶋 一彦		医師	感染制御部長
田中 宏幸		医師	医療安全管理部長
甲斐 義啓		事務職員	総務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有）
- ・ 公表の方法
院内ホームページに掲載
- ・ 規程の主な内容
病院長の任務と権限、任期等
病院長規程
第3条（病院長の任務と権限）に基づき、管理運営上必要な意思決定、人事、予算執行に関する適切な権限を有する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
病院規程第4条において、病院長の職務を円滑にするため、副院長を置くことができるとあり
現在、以下6名を配置している。

(所属・役職等) 消化管内科診療部長 麻酔科診療部長 呼吸器外科診療部長 炎症性腸疾患外科診療部長 呼吸器内科診療部長 看護部部長	(担当) 内科部門長、広報 働き方改革、急性医療総合センター、情報システム 外科部門長 地域連携、教育研究体制、新専門医制度 医療安全、危機管理、がん診療 療養環境、患者サービス、病床管理
---	--
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

特定機能病院管理者研修

【受講者】	【日付】
管理者	2022. 1. 19
医療安全管理責任者	2022. 2. 14
医薬品安全管理者	2021. 12. 23
医療機器安全管理責任者	2022. 1. 19

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年2回 第1回（2021年8月）は、メール審議形式により開催、 第2回（2022年3月）は、対面形式により開催いたしました。 ・ 活動の主な内容： 病院長から医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療の質・安全審議委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者の業務が適切に実施されているか等について説明（報告）を求めるとともに実地（外部委員を含めた立ち入り調査を含む）で監査を行う。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有） ・ 委員名簿の公表の有無（有） ・ 委員の選定理由の公表の有無（有） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有） ・ 公表の方法： 兵庫医科大学病院のホームページにて掲載 					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
宮崎 浩彰	関西医科大学 医療安全管理 センター副セ ンター長 （兼任）消化器 肝臓内科/理事 長特命教授（医 師）	○	医療に係る安全 管理に関する見 解を有する者	無	1
亀井 尚也	かけはし法律 事務所（弁 護士）		法律に関する見 解を有する者	無	1
辰馬 勝	学校法人 関西 学院評議員		医療を受ける者 の立場から意見	無	2

	関西学院同窓 会 副会長		を述べることが できる者		
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

①監査部門による監査及び報告

監事による監査の実施（学校法人兵庫医科大学監事監査規程）

監事は常に本法人経営に関する内部統制の状況及びその有効性に留意しながら、本法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について監査を行っている。必要があると認めるときは、理事長に意見表明を行うこととしている

内部監査室による監査の実施（学校法人兵庫医科大学内部監査規程）

理事長直轄の組織として内部監査室を設置している

年度計画を策定し、監査を実施している

監査対象は、法人、大学、病院であり法人全体となっている

監査結果は理事長へ報告するとともに、被監査部署に通知している

指摘事項に対する改善状況については、フォローアップ監査を実施し改善状況を確認している

外部監査法人による監査の実施

会計監査を実施し、その結果を理事会に報告している

②管理者の重要会議への出席

管理者（病院長）は、理事会、評議員会、常務会、経営常務会の重要会議へ出席し、業務に関する審議事項の説明及び報告を行っている

重要会議には、監事も出席している

③通報・相談窓口の設置

業務に関し法令等に違反する事案・行為を発見した場合に、教職員が電話、電子メール、書面や面談等により利用できる通報・相談窓口を設けている

通報・相談を行った者に対して不利益な扱いをしない旨を規程に定めて実効性を確保している

（学校法人兵庫医科大学公益通報者保護規程）

窓口は内部監査室に設置している

④医療安全業務監査委員会（兵庫医科大学病院医療安全業務監査委員会規程）

監査委員会は、出席委員全員の合意の下に、監査結果を開設者・病院事業管理者及び病院長に対して意見を述べ、必要に応じて是正措置を講じるよう指導または勧告することができる

病院長（管理者）は是正指導または勧告を受けた場合は、速やかに監査委員会に対して改善内容等を報告し、承認を得なければならないとしている

なお、監査結果報告書は公開され、閲覧できる

・ 専門部署の設置の有無（有）

・ 内部規程の整備の有無（有）

・ 内部規程の公表の有無（無）

・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <p style="margin-left: 20px;">年6回の理事会の開催</p> ・ 会議体の実施状況（年7回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（有）（年7回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（有） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有）・ 通報件数（年 0 件）・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（有）・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有）・ 周知の方法<ul style="list-style-type: none">■ 医療安全に関する通報 → 病院事務部 → スタッフマニュアルに掲載■ 公益通報 → 内部監査室 → ホームページに掲載■ 病院運営情報全般 → 管理課 → 教職員宛に通知のうえホームページに掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>ホームページや院内掲示を通じて、患者さん及び外部へと診療実績（臨床的・インディケーター）をはじめとした情報を発信している。また、「学校法人兵庫医科大学広報」と「ここらいふ」の2誌を定期的に発行しており、連携病院に対しては送付による案内も行っている。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>安全管理体制の強化を図るとともに、医療の質向上を目指し、複数診療科の医師、看護師をはじめとしたメディカルスタッフ等多職種からなる医療チームを編成し、適切な患者ケアや総合的な患者管理等を行う医療チーム及び医療従事者の質向上を目的とする合計14の医療チームを組織している。</p> <p>（患者ケア等を目的とするもの）</p> <p>感染対策チーム（ICT）、褥瘡対策チーム、栄養サポートチーム（NST）、緩和ケアチーム、呼吸ケアチームおよびラピッドレスポンスチーム（RRST）、精神科リエゾンチーム、周術期管理チーム、認知症ケアチーム、排尿ケアチーム、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）、子どもと家族の支援チーム、医療倫理コンサルテーションチーム</p> <p>（医療従事者の総合的な支援を目的とするもの）</p> <p>エコーガイド下CVC挿入推進チーム、救命処置（BLS・ALS）推進チーム、新型コロナウイルス感染症禍における職員のメンタルサポートチーム</p>	